



No.9. 2020. 11. 27

”つながり”

ぼろびっぴで子ども達を見ていて、この子達はどれだけ深いところでつながっているんだろうかと思うことがある。

仲良しとか、友達とか、仲間とか、いろんな表現はあるが、なんかそんなレベルでは無く、共同体とか、家族とか、そんな感じすら受ける。ただ、ベタベタとくっつき合うような仲良し組という訳ではなく、一人一人気ままに、過ごしたいように時間を過ごしている。同じ森で同じ時間を共有していることに、全然気負いもないし、気怠い感じもない。とにかく自然体でみんな過ごしているのに、みんなつながっている。言葉にしなくても、わかり合っている感じといえいいのだろうか。もちろんみんな喋っているが、言葉以上に周りの人たちのことを理解している感じがする。そこには学年の違いも、性別の違いも、学校の違いもない、全員が何かとても深いところでつながっている気がする。

この前、とあるキャンプで、びっぴ卒園生に「びっぴ出身者は他の子どもとどう違うの？」という問いかけをした。返ってきた答えは、「物事の捉え方が根本的に違うと思う」というこれまたすごい答え。捉え方が違うから、考え方も違うし、表現の方法も違うらしい。びっぴ卒園生ではない僕には、何が違うのかをはっきり理解することは出来なかったが、その場にいた他の子どもたちは肯いていた。「物事の捉え方」が似ている子ども達が集まっているから、深いところでつながっていると感じるのだろうか。

それぞれが違う小学校に通い、いろんな考え方や価値観の人たちがいる社会の中で、多少なりとも生きづらさを感じている日々の生活。その日常から開放されて、森に帰ってくことでびっぴの仲間と会い安心する。その安心感が”つながり”をさらに深くしているような気がする。

僕は普段、ビームスという会社で仕事をしている。ビームスの社員の”つながり”も、強い。僕は転職組だが、こんなに社員同士の”つながり”が強い会社は初めてだ。なぜ、ビームスの社員の”つながり”が強いのか。最大の理由は、社員の9割が「ビームスが大好き」だからだ。ビームスで扱っている洋服が大好きで、ビームスの世界観が大好きで、ビームスが行う様々なイベントやムーブメントが大好き。そんな価値観が近いから、同じ時間を過ごすことが楽しく、仕事のみならず休みの日もみんな一緒に遊んでいる。ビームスの仲間と一緒にいると、みんな安心できるんだろうな、と思う。

よく「ビームスは動物園のよう」と言われる程、個性的な人ばかりが揃っている。ファッションも個人個人のスタイルがあり、趣味も多種多様だ。個性が強く、趣味も違えば、普通バラバラになりそうなものだが、根底にある価値観が一緒だからそうはならない。ファッションや趣味が違って、リスペクトする。違いがあるからこそ、そこに化学反応が生まれて、新たな面白さを産むことができる。だから、さらに”つながり”が強くなるんだろうと思っている。

びっぴの子ども達も相当に個性が強いと思う。今年4月に少しだけびっぴの保育を体験させていただいたが、子ども達の個性の強さと違いに驚いた。こんなに一人一人が違うんだと。でも、びっぴの子ども達は違うことを当たり前のように受け入れている。小さな子どもなのでぶつかることは当然あるが、成長するにつれて折り合いの付け方を学び、自他の違いを受け入れていく。

びっぴの子ども達の”つながり”の深さは、「共通した物事の捉え方」「安心感」「個性へのリスペクト」みたいな物が産んでいるんだろうと推測する。まとめて言葉にしてしまうと急に陳腐になってしまうが、そんな仲間がいる息子が羨ましい事だけは変わらない。

話は変わるが、びっぴ卒園生の保護者も”つながり”が強い。これは僕自身も強く感じており、僕が属している他のコミュニティのどれよりも強い。理由は3つほど思いつく。

一つ目は、保護者もびっぴに育てられていること。

二つ目は、びっぴに子どもを通わせる暮らしを、一緒に乗り切った仲間であること。

三つ目は、びっぴが大好きなこと。

二歳児の両親の大半が、子育て初心者と言える。びっぴや、まゆさんを始めとしたスタッフは、その子育て初心者の大きな心の拠り所になっていると思う。「お母さんを開放してあげたい」と願うまゆさんの理念により、子育て初心者だった僕たちはとても助けられた。そして、育てていただいたと感じている。びっぴに育てられた僕たちは、子ども達ほどではないとしても、同じようにつながれているんだろうと思う。

びっぴに子どもを通わせることは、保護者にも過酷なことだと思う。送り迎え・お弁当・洗濯・お風呂・気候に合わせた服装の準備など、お母さんが心身ともに健康であったとしても、大変だ。そんな中、お母さん達は助け合い、協力しあってびっぴの4年間を乗り切る。送迎の時間などで、ノウハウやTips、はたまた洋服・グッズのお下がりまで、様々な物が伝承されていく、それもびっぴの”つながり”一つなんだと思う。

びっぴが大好きで、そんな経験を共有してきた僕たちも、子ども達と同じように、良い”つながり”を育てている。子ども達が大きくなっても、”つながり”続けていたいなと心から思う。

12月から、在園生の保護者や、卒園生の保護者が、いつでも気軽に集まって話をしたり作業をしたりできる場所を作る計画をしている。びっぴの保護者の”つながり”を、さらに育むことができる場所になったらいいなと思っている。

: 山崎 元

森林のみちくさ Sketchbook 12月

シロビタキ

オレンジ色のお腹と
つぶらな瞳で
愛らしい鳥。
「ヒュー！」という
力強い声がしたら
せびみつけてみて



体長
12.5~15.5cm

森の木がすくすく落ちて、蒼い冬の空と
小鳥たちの姿がよくみられるようになりまして。
びらびらの森でも11月上旬頃から、昨年子どもたちが
作ったエサ台にまるで催促するように、ヤマガラや
シジュウカラの姿がみられたり、どくぐりの実を冬にイチ帯て
集めるカケスたちの群集がみられるようになりまして。
今月は晩秋~冬の森で姿とみやすい鳥たちをスケッチしてい
せび、森にでかけたら、彼らの声とにより、姿を
みつけてみて下さいね！

： 菜々鳥

イカル

森の奥のさびしく

「チーコーキー♪」「ヒューーヒューー」とい
高らかなよく通る声が聞こえたら
ロシロシの黄色いイカルの姿が
そのロシロシ
みつかるでしょう。
ミツバウツギなどの木の皮
を食べるために
からしりとして
います。



体長 23~25cm



ウソ 体長 15.5cm

「ウソ」という名は口笛を意味する古語から
きています。「ヒューー♪」という口笛の鳴りかたし
悲しげな声ですが、姿はふっくらと、のどもはほんのり
ピンクで愛らしい鳥です。木の皮や
花葉なども好きで度々梅のつぼみなどを
ついごんでいる姿をみることもできます。



カケス
体長 34cm
4cm (ほどの
美しい
卵殻)

今月の Tea time

ノイバラ (常葉)

クリスマスローズの飾りなどにも
大活躍のノイバラ。一般的にハーブ Tea
として飲まれるローズヒップとは種類が
少し違い、こちらがより茶葉通便など
の効果があり、常葉という漢方薬と
して利用されます。また、美白、保湿
抗酸化作用に優れており、化粧品
などにも多く利用されています。もちろん、
鳥たちにも人気です。



カケスほどの
大きさととも賢い
鳥。自分の声は
「チーコーキー」とい
声ですが、いくつかの
鳥の声や音も
記憶して、自分でものをねもできます。晩秋、冬に向け
どんぐりを集め、木の枝や皮のわれ目に隠します。
忘れられたどんぐりから、芽が生え、森をつくっている
といわれています。

